第26回 少年の主張 鏡石町大会

8月2日㈮、町健康福祉センター多目的室で第26回少年の主張鏡石町大会が開かれ、小学生8人、中学生3人が出場し、小学生の部は竹島七星さん（鏡石一小6年）、中学生の部は吉田莉子さん（鏡石中3年）が最優秀賞を受賞しました。また、吉田優衣さん（鏡石二小6年）、渡部結さん（鏡石中1年）が優秀賞を受賞しました。中学校の部に出場した3人は、県大会に推薦されます。最優秀賞の2人の作品を紹介します。

「親に感謝、そして大切にしよう」

鏡石一小6年　竹島　七星

みなさんは、お父さんお母さん、つまり親のことが好きですか。親にどのように接していますか。親と仲良しですか。ぼくも六年生なので、そろそろ反抗期がきてもおかしくないと思います。

最近、こんな事がありました。母に何かで怒られた時に、『はあ？』と言ってしまいました。また、怒られた後、母がトイレに行っていないときに、クッションにパンチしてしまいました。

親というのは一番身近な存在です。ぼくたちのことを一番支えてくれていると思います。みなさんもこれまでの記憶を思い返してみてください。そうすれば、親にたくさん支えられていたことに気づくでしょう。

親のありがたさがわかる時はいくつかあります。まず、病気の時です。新型コロナウイルス、インフルエンザ、さらには胃腸炎などの病気。熱やせきが出るかぜ。そんな時、親は学校に休みの連絡をしてくれたり、薬を買ってきてくれたり、病院に連れていってくれたりします。ぼくはよく転んでひざをすりむくのですが、傷の手当てをしてもらいます。

また、悩み事がある時に、友だちや先生に相談することもありますが、一番相談しやすいのは親です。ぼくは、友だちとケンカしたときにアドバイスをしてもらいました。勉強のことでわからないことがあると、親に聞いて教えてもらうことがあります。

さらに、みなさんそれぞれほしいもの、買ってほしいものがあれば、自分で買う人もいるかもしれませんが、多くの人は親に買ってもらうでしょう。ぼくは、そろばんの試験に合格した時に、ごほうびでほしいものを買ってもらいました。

何より、親のありがたみがわかるのは、食事です。朝ごはん、昼ごはん、夜ごはんを作ってくれるのは親です。このように考えてみると、親にはたくさん支えられていることがわかります。

それでは、もし、親が支えてくれなかったら、あるいは親がいなくなってしまったらどうでしょうか。今言ったこと、病気の時の看病、悩み事の相談、勉強の質問、買い物にごはん作り、その他もっといろいろなことをしてもらえなくて、自分で全部やらなければならなくなります。自分でできないことを誰かかわりにやってくれる人がいないのです。一人っこの場合は、自分一人になってしまいます。

考えてみてください。親がいなければ、お金が入らないので、電気・水道・ガスも止まってしまいます。家で一人でさみしくくらすことになります。家に住めなくなり、めんどうを見てくれる親せきもいなければ、しせつに入所するようになります。

ぼくの考えを誤解しないでください。もちろん親がいない人や、支えてもらえずにしせつにいる人は全員が不幸であるとは限りません。ぼくの言いたいことは、『親に感謝する気もちをもった方がいい』ということです。

最初にも言ったとおり反抗期の人もこの中にはいるでしょう。そんな時、親にひどい言葉をかけてしまうことがあるかもしれません。それでも親はぼくたちの事を大切にしてくれます。だからこそ、ぼくは親には感謝し、そして親を大切にしなければいけないと思います。

第26回少年の主張鏡石町大会に出場した皆さん

「みんなちがってみんないい」

鏡石中3年　吉田　莉子

「私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地べたを速くは走れない。私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。鈴と小鳥とそれから私、みんなちがってみんないい。」

金子みすゞさんの代表作の一つ、「私と小鳥と鈴と」。みなさんは、知っていますか。私がこの詩と出合ったのは、私が幼稚園生の時でした。いつも行く図書館で、何となく手に取ったのがこの本でした。それから、私はこの詩を毎日読むほど気に入っていました。ですが、小さい頃は何となく読んでいたこの詩の意味を理解したのは、最近のことです。

テレビや新聞でよく目にする「差別」という言葉。そのニュースの陰で悲しむ多くの人々。それが、私がこの詩の意味を深く考えるきっかけとなりました。「この人たちは、何か悪いことをしたの。だれかの迷惑になることをしたの。」そんな考えが私の頭に次々と浮かびました。そして、それと同時に思い浮かんだ言葉、それが「みんなちがってみんないい。」でした。「じゃあ、みんなちがってみんないいってどういうこと。差別がなくなるために私たちにできることって何だろう。」私は次にそう考えました。

まず、一つ目の疑問の「「みんなちがってみんないい」ってどういうこと」についてです。それは、今生きている私たちが、一人一人違うお互いを、よいところも悪いところも含めて認め合うことだと思います。ほかの人が、自分と違うのは当たり前です。百人いれば、百人全員が違う考えで、違う意見をもっています。だから、他の人が自分と違う考え方をしたり、否定したりするのは絶対によくないことだと私は思います。むしろ、それでいいのです。みんなと考え方が違っても、意見が違っても、好きなことが違っても、嫌いなことが違っても、それでいいのです。自分の思いをもつということは、とても素敵なことです。あなたにしか考えられない大切な言葉の宝物だと思います。その宝物を一人一人が大切にするべきです。私には、まっすぐに自分の思いを言える人がキラキラ輝いて見えます。なぜならそれは、みんな違ってみんないい考えであり、かけがえのない個性だからです。

次に、二つ目の疑問の「差別がなくなるために、私たちにできることって何だろう。」についてです。私は、それについて二つ考えました。まず一つ目は、一人一人が差別について深く知り、考えることです。私は、差別というものをよく理解していないから、簡単にそういうことが起きてしまうのではないかと思いました。「差別」についてよく理解し、「絶対にしてはいけないことだ。」ということがわかっていれば、そんなことは起きないはずです。だから、今世界中で起きている差別について知り、してはいけないということを強く理解するべきだと私は思います。二つ目は、相手を知ることと、優しい気持ちをもつことです。差別が起きてしまう大きな原因は、相手への偏見や無理解であると言われています。「この人って何々だから嫌だな。この人ってもしかしてこうなんじゃない。」このような憶測が広がることで差別につながるのです。ならば、「この人は、何々ができるんだ。すごいな。でも、これは苦手なのか。じゃあ手伝ってあげよう。」と優しい気持ちになってほしいのです。何も知らず、初めから相手を避けたり拒否したりするのではなく、その人のことをしっかりと知り、理解しなければなりません。その人のことを本当に知り、私たち皆が優しい気持ちになったその時、差別はなくなるでしょう。この二つが、「差別がなくなるために、私たちにできること」なのではないでしょうか。

最後に、幼いころの私へ。あの本を見つけてくれてありがとう。あのときのあなたのおかげで、私は、自分にとって大切なことが少しずつわかってきたような気がします。「みんなちがってみんないい」私は、一人一人を理解し、どんな人にも優しい心をもつ人間でありたい。今の私は、そう考えています。